



ベルン日本語教室主催・HSK（母国語文化教室）統括組織後援

講演テーマ 本当に必要？いつまで、どこまで必要？
スイスでの日本語 ～ 継承語

講演者 Fuchs- 清水 美千代 先生

日時 2017年 3月 5日（日） 14:00 – 16:30

場所 Zentrum 5, Flurstrasse 26B, 3014 BERN

ベルン駅からバス20番 (Wankdorf Bahnhof 行) Wyleregg 下車 徒歩3分

参加費 無料（託児サービスあり）

コーディネーター ベルン日本語教室

スイスにいる限り、現地の言葉が最優先。それでも日本語は必要なの？家で親と話すだけでも十分じゃない？日本語教室に通う必要はあるの？通い始めたけれど、学年も上がり現地校の勉強宿題も大変になってきた。このままスイスで日本語の勉強をさせる事は本当に必要？続けることに意味があるのかなあ。そもそも継承語というのは何だろう？

お子さんにとっての日本語（継承語）は、私達にとっての日本語（母語）とは、実は違う言葉なのだということを、みなさん肌で感じてはいらっしゃると思います。その「感覚」をあらためてセミナーで知識として得ることは、今日本語に関して問題がある・無しにかかわらず、今後のスイス生活での大きな助けにもなるのではないかと思います。

講演の後には、お茶とお菓子でごゆっくりご歓談下さい。

Fuchs-清水美千代（フックス-しみずみちよ）

日本語教師（現職：パーゼル日本語学校 / NSH Bildungszentrum Basel）。

1985年パーゼルにて、日本人保護者有志と共に現在のパーゼル日本語学校を設立、その後32年間、教師として継承日本語教育に力を注いでいる。2003 - 2007年スイス日本語教師の会会長。2014年からAJE（ヨーロッパ日本語教師会）役員。スイス日本語教師の会教科書制作グループ主宰。国際交流基金の援助を得て、同僚とともに継承日本語教科書とそのワークブック『にほんご1ねんせい-このゆびとまれ-』（2003）、『にほんご2ねんせい-はないちもんめ-』（2007）制作。

AJEのシンポジウム等で継承日本語教育に関する発表をはじめ、イギリス、フランスなど海外及びスイス国内で継承日本語教育に関する講義を多数行うなど、継承日本語教育の発展のために努力している。